



学生担当スタッフより

「『難民』ってなんだか遠い存在。そもそも日本にもいるの？」—そんな問いを持っている方はいませんか？

実は、日本にも世界各国から逃れてきた難民が約2万人います。普段私たちが目にしないだけで、東京にも多くの難民が生活しているのです。なかには言語もわからないこの国で、所持金が尽き、野宿せざるをえない人もいます。

「難民」—働いて、我が家に帰って、子供と遊んで、そんな祖国での「普通」の暮らしを失ってしまった人々。そんな彼ら一人一人にも名前があります。「難民」の彼・彼女ではなく、「〇〇さん」という名の個性ある人として、その人と向き合ってみませんか？

今年度初回講演では、そんな彼らを友と呼び、ホームステイ企画で難民と市民を繋ぐ活動をされている渡部さんをお迎えします。新学期、「総合」で新たな世界の開拓へ！どうぞお楽しみに！

4月20日(木) WELgee

第2の人生に希望を抱ける
社会に
～「難民」という言葉の
裏に隠れた個人と出逢う
～

渡部清花氏 (WELgee 代表 / 東京大学大学院修士課程)

【プロフィール】

東京大学大学院、総合文化研究科、人間の安全保障プログラム修士2年。

学部時代、NGO 駐在員・国連開発計画(UNDP)のインターンとして、バングラデシュの元紛争地で2年過ごす。先住民族の村に暮らしながら、文字のない言葉を習得。日本に逃れてきた難民の人々が、第2の人生に希望を抱ける日本社会を作るため WELgee を設立。トビタテ！留学 JAPAN 1 期生 / MAKERS UNIVERSITY 1 期生 / 世界青年の船・日本参加青年 / ASAC 東京都アクセラレーションセンター第3期採用